

結婚しない訳、できない訳

大津 隆文

国勢調査(2020年)によれば、50歳時未婚率は男性が28%、女性が18%と高く、かつ上昇傾向にある。結婚しないのは何故か。自分の意思でないのか、或いはしたくても出来ないのか。

25〜34歳の未婚の男女に「独身でいる理由」を尋ねると、適当な相手がいない、がトップ、次いで、独身の自由さや気楽さを失いたくない、結婚する必要性をまだ感じない、今は趣味や娯楽を楽しみたい、が後に続く(出生動向基本調査(2021年))。

かつては結婚するのが当然視された。結婚式の挨拶で、人間は元来背中合わせの二身一体だったが、ある時二つに裂かれベターハーフを求め彷徨う存在になった、本日ここにめでたく本来の姿に戻った、と祝われたりもした(ネタ元はプラトンの『饗宴』)。結婚適齢期と呼ばれる歳頃になると周りから世話を焼かれ、プレッシャーを受けたものだった。今は本人の意向が第一で、これが晩婚化、未婚率上昇の背景にある。

他方、結婚したくても出来ない厳しい現実もある。結婚資金が足りない、住居のめどが立たない、ことも独身でいる理由になっている。非正規雇用の給料では結婚できないとの嘆きも聞く(「一人口は食えぬが二人口は食える」との諺も昔か)。

深刻なのは、女性の未婚者(18〜34歳)に自身のライフコースを尋ねた質問。理想のコースとしては就業と結婚の両立が一位、現実の予想コースとしては就業・非婚が一位。悲しくなる。男女の役割分担の見直しが叫ばれているが、家事や育児等まだ女性の負担が圧倒的に大きいのであろう。ジェンダーギャップの解消に拍車を掛け、結婚のハードルを下げなければ。

最近公表されたお隣韓国の調査では、「結婚してもよく、しなくてもよい」が43%、結婚しない理由としては「結婚資金が足りない」等の経済問題が大きい。また「結婚しなくても男女は一緒に暮らせる」が65%、「結婚しなくても子どもは出来る」が35%に。日韓ともに結婚観も変わってきた。